

「一村一社」運動の今後の進め方

平成25年12月24日

「一村一社」運動推進グループ

一村一社運動とは

－ 農村の抱える課題 －

- 耕作放棄地や空き家の増大
- 人口減少による集落消滅の危機
- 地域生態系、流域の環境悪化
- 高齢社会（認知症）

－ 都市の抱える課題 －

- 企業・社員の活力低下（うつ病）
- 企業・社員の想像力低下（五感の停滞）
- 緑や土に対する欲求
- 高齢社会（認知症）

一村一社運動による農村と都市の交流促進

地域活性化の側面

- 交流をベースとした新たな産業創出
- 地域資源を活用した新たな商品開発
- 農村起業家の創出
- 農村の知名度向上
- CSR推進による企業イメージの向上
- 大規模災害時等の相互支援

健康・活力の側面

- 高齢者の健康づくり、生き甲斐づくり
- 若者の健康づくり
- 認知症やうつ病の改善・予防
- 職員や家族の福利厚生
- 医療費の削減
- 故郷に対する誇りの醸成

1

農村と企業のマッチング

- 交流会・セミナー
- モデル事業による普及・啓発

2

モデル事業

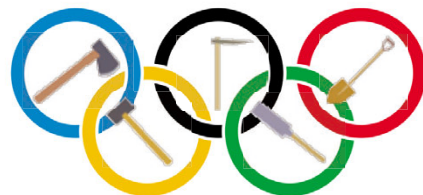
- 元気道場
- 企業ファーム
- スマートビレッジ 等

3

人材育成

- 研修会・セミナー
- 地域再生塾（農村起業家育成）

2018年



農林ピック

一村一社運動の今後の展開（案）

	目標	展開イメージ	体制案
1. 農村と企業のマッチング	全国で 1千件	●交流会・セミナー ●モデル事業視察 ●ネットワーク構築 （情報の提供・共有）	●各地の自治体 ●NPO ●推進組織 等
2. モデル事業	47か所 （各都道府県）	●イベント・巡回 ↓ ●常設化	●地域の運営主体 ●市民・住民 ●専門家（学会、協会等）等
3. 人材育成	農村起業家 1万人	●都市でのセミナー ●地域再生塾	●自治体 ●NPO ●企業 ●支援組織 等

1. 農村と企業のマッチング

農村資源を都市のニーズと
結べば10兆円産業が動き出す！
を実現するポイント

農村と都市をつなぎ、
事業の企画運営ができる
農村起業家の育成

都市と農村をつなぐ ビジネスモデルの作り方

$$\text{農村資源} \times \text{都市ニーズ} = \text{都市と農村をつなぐビジネスモデル}$$

資源

- 場所資源
- もの資源
- ひと資源
- 無形資産

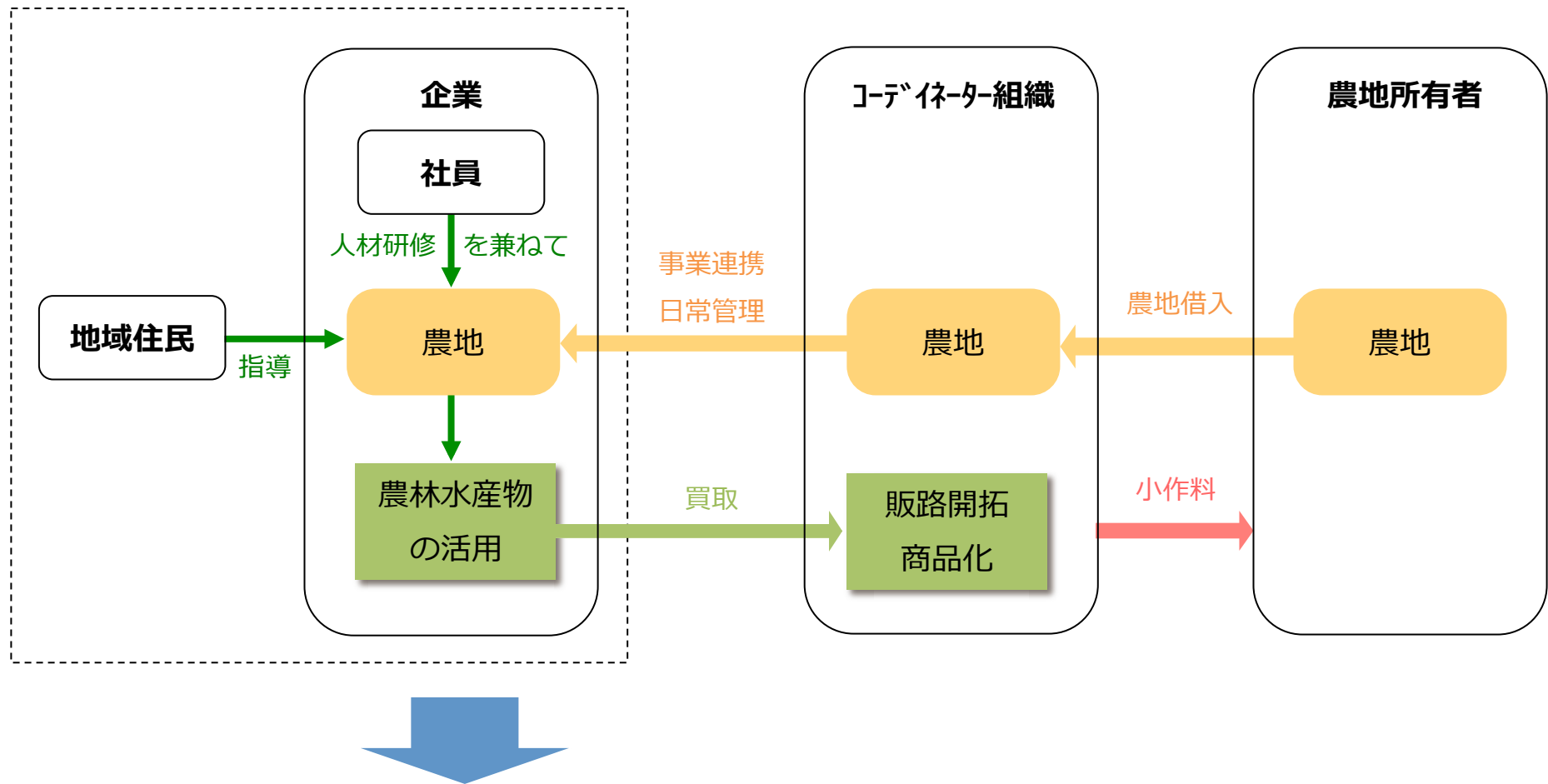
個人ニーズ

- 食と農
- 自然体験
- 田舎暮らし
- 健康癒し
- コミュニティ
- 文化・アート

企業ニーズ

- CSR
- 人材の活性化
- 安全安心な食の調達
- CO2削減
- 新規事業展開

えがおつなげて 企業ファームモデル



CSR、社員活性化、福利厚生、企業イメージ向上、顧客サービス、新事業開発等

2. 元気道場（元気道場のテーマ）

“自然の力”で体の外と中から健康で美しくなる

活かす

運動や増気など日頃から健康や美を保つ療法を指導



癒す

畑や海、個人菜園で心と体をヒーリング



覚ます

歌を歌うことで嚥下障害やボケ、認知症を予防



“自然の力”
（体と自然が持つ力）
で“体と心の健康”
を保つ

自然・
自然食品

補完
代替医療

伝統医学や民間療法など過去から伝承されているが西洋医学療法では取り上げられていない療法。ヨガやアロマテラピー、食事療法、音楽療法などがある。

養う

野菜や魚介類たっぷりで体内外がきれいに健康になる食事の提供と指導



当初はイベントから開始し、中長期的には施設などを充実し本格的な事業化をめざす。

2. 元気道場 (元気道場事業イメージ)

中長期的に「リゾート元気道場」を核に健康関連事業を拡大

食品・化粧品・サプリメント



地産品関連事業

- ・地産ブランド食品化
- ・OEM事業

料理



教育関連事業

- ・お料理教室
- ・お料理本出版

「リゾート元気道場」

「食事」・「療法指導」・「休養」
を核にし体と心の健康を促進する
滞在型の健康回復施設として
通年営業する。



(療法)

- 増気療法(ヨガ・気功・太極拳等)
- 心音療法
- 食事療法
- 運動療法
- 温泉療法

農園・自然



観光関連事業

- ・グリーンツアー
- ・トリハートツアー

温泉



健康関連事業

- ・湯治事業
- ・ヘルスセンター事業

2. 元気道場（元気道場健康メニュー）

三位一体健康法を基本にした健康サービスを実施

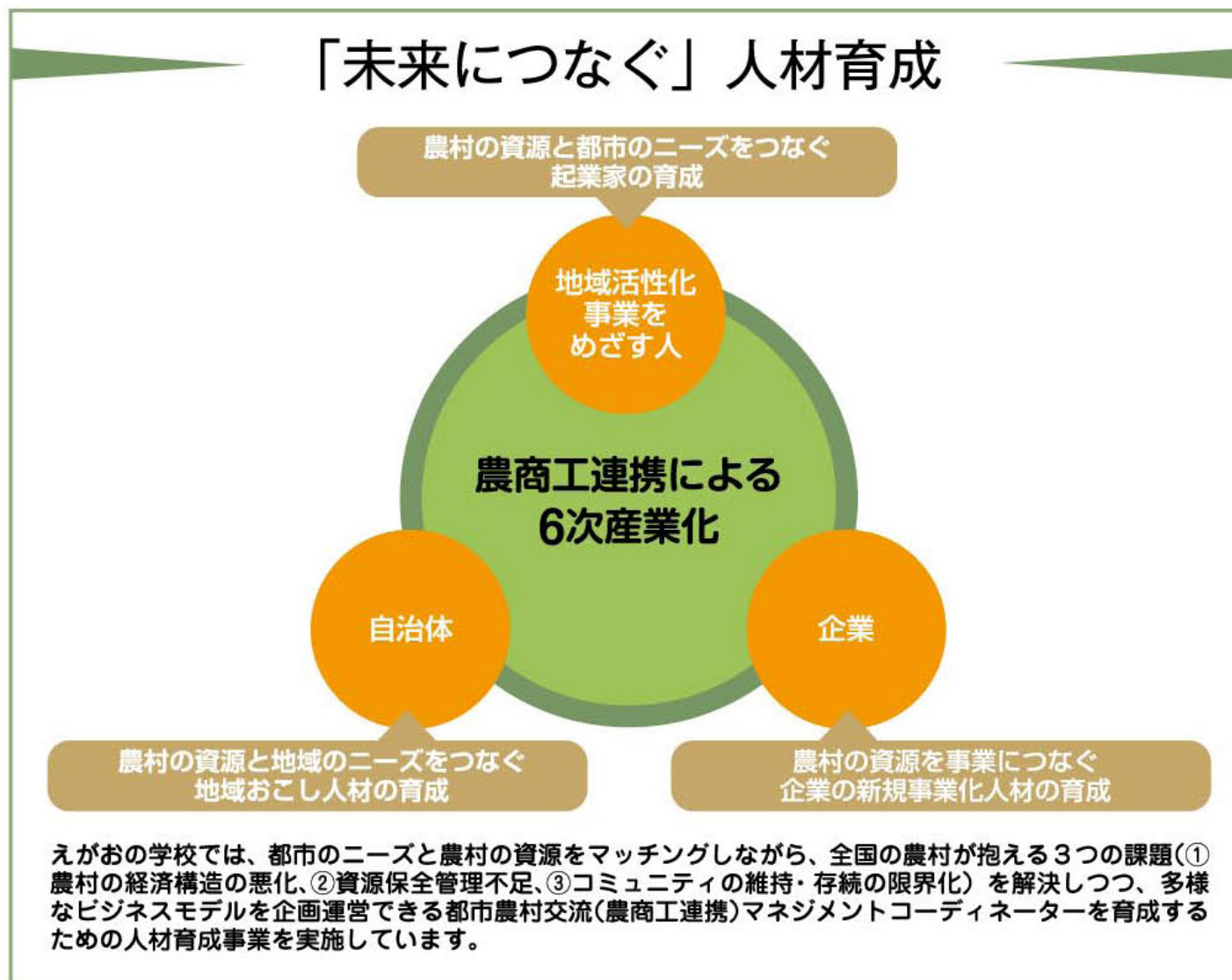
「三位一体健康法」とは、頭（脳）、体、心それぞれの特性に応じ①「クラウド健康法」②「類人猿健康法」③「親和力健康法」を適用し、相乗効果により病気の予防・治療効果を高める「統合健康法」。

屋内メニュー	心身機能活性運動療法 	認知症改善のための心身機能活性運動療法 姿勢保持の不安定さを改善したり、腰痛を予防する方法や全身の血行を促進し、体の緊張や痛みを和らげる活性温熱療法、神経や身体機能改善を図るための米国発フィンガースポーツ運動、身体機能改善のためのゲーゴルゲームなど。また「心身バランス計」（タニタと共同開発）を用いて効果を測定。
	心音療法 	芸能人・文化人によって大衆芸能を通じて老人福祉の活動をとうして行った「虹のキャラバン」の活動の経験をベースに補完代替医療の専門家との共同研究から開発された、五感の活性化による認知症等の高齢化障害を予防する手法。歌唱を中心に回想療法や運動療法を組み合わせたエンターテイメント性の高い楽しい音楽療法+五感プログラム。
	健身気功 	中国政府が認定した世界共通の気功法。調心、調息、調身を通して自身の健康状況を改善し人体の潜在能力を活性化させる手法
	食事療法	“地産地消”をベースにしたマクロビダイエツトなど健康食事サービスを提供。
屋外メニュー	農業作業、漁業体験、自然散歩などの作業療法を行う。	

初年度はイベントとして実施し、徐々に恒常的施設を活用した健康事業化する。

3. 人材育成

―地域再生塾のイメージ（先行事例）―



えがおの学校では、都市と農村をつなぐ人材を育成します。

都市農村交流(農商工連携)マネジメントコーディネーターとは

えがおの学校が育成するのは、都市部の状況を踏まえ農村が保有する多様な資源を的確に把握し(知識力)、新たな事業を企画し(企画力)、地域住民をはじめとした多様な主体との調整を行いつつ(コミュニケーション力・提案力)、都市農村交流(農商工連携)事業マネジメントコーディネーター(運営力・実現力)を進めることができる人材です。当校は、起業を志す方、新規事業を検討の企業、都市との交流を広げたい農村部の自治体などで、新たなビジネスモデルを展開できる人材を育成します。

えがおの学校

都市農村交流マネジメントコーディネーター育成のステップ

【基本ステップ】

STEP1: 概論
都市農村交流マネジメントコーディネーターの意義・必要性の習得

STEP2: 農村資源の捉え方
マクロとミクロ、多様な資源価値の習得

STEP3: 都市のニーズ
個人のニーズ、企業のニーズの習得

STEP4: ビジネスモデル
5Pモデルの習得 (5P: Products, Price, Place, Promotion, Person)

STEP5: 事業計画の習得

STEP6: プレゼンスキルの習得

成果発表会(ビジネスプランの発表&ビジネスマッチング)

都市農村交流(農商工連携)マネジメントコーディネーターの役割や社会的位置づけ、職業としての可能性を広く普及させるため、成果発表会を行います。企業や自治体、NPO等に参加してもらい、研修生とのマッチングの機会を設けます。

発表したプランの一例(平成21年度)

最優秀賞 幸せな鶏達のオーナー制たまご
優秀賞 「都市と農村を笑顔でつなげる「旬・菜・便」事業」
・家業を太くせんばと! 竹添ハウス食品をつくろうぜ
・規格外野菜とペットフードを結び付ける



講義

発表

ワーク
ショップ

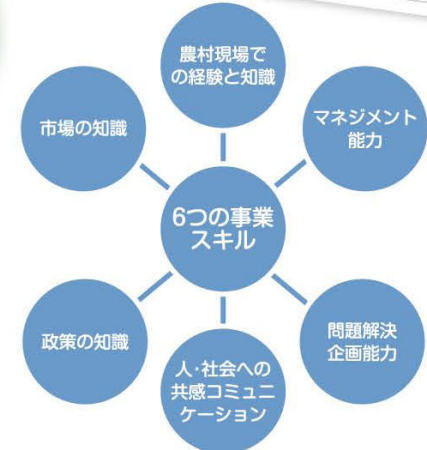
課題

フィールド
ワーク

都市と農村を結ぶマネジメント能力を 総合的に学べます。

えがおの学校のカリキュラムは、標準化マニュアルに基づいており、マネジメントコーディネーターとしての幅広い能力を、「6つの事業スキル」で体系的に習得していくことができます。

6つの事業スキルを 体系的に学習



地域活性化事業をめざす方へ

当NPOの活動に賛同し、農村資源を活用したビジネスプランを構築・実現できる人材を育成しています。人材育成にとどまらず、地域・企業とのマッチングなどの活動を通じて、多くの研修修了生が起業家の道を歩んでいます。

地方自治体の方へ

農村が抱える課題を解決するために、農村に対する都市のニーズを踏まえ、自ら企画して、様々な都市の人・組織等との連携を構築しながら、地域おこしを実践できる「マネジメントコーディネーター」人材の育成を図ります。

企業の方へ

農村との連携を通じて、都市のニーズと農村資源をつなぐ人材を育成しています。企業のCSR事業や、農業参入等を検討されている企業の研修、エリアマーケティング、ブランディング、福利厚生等に適したプログラムです。



曾根原久司 特定非営利活動法人 えがおつなげて 代表理事

主な役職: 山梨県立農業大学校講師、山梨県やまなしコミュニティビジネス推進協議会会長、内閣府地域活性化伝道師、NPO法人南アルプス山の学校理事長、NPO法人バイオマス産業社会ネットワーク理事

表彰履歴: ●平成15年度 農林水産省 オーライニッポン大賞ライフスタイル賞受賞 ●平成18年度 農林水産省 立ち上がる農村漁村 優秀事例選定 ●平成19年度 毎日新聞 グリーンツーリズム大賞優秀賞受賞 ●平成19年度 農林水産省 オーライニッポン大賞受賞 ●平成20年度(財)あしたの日本を創る協会 読売新聞、NHK主催あしたのまち・くらしづくり活動賞 内閣総理大臣賞受賞 ●平成20年度 経済産業省 ソーシャルビジネス55選選定 ●平成22年度 世界の社会起業家を競うSEQY日本プログラムのファイナリスト選出 ●平成22年度 農林水産省 食と地域の絆づくり優良事例選定 ●平成22年度 フード・アクション・ニッポンアワード2010 コミュニケーション・啓発部門優秀賞受賞

えがおの学校には未来への笑顔が満ちています

特定非営利活動法人えがおつなげては平成13年に設立後、地域共生型の市民ネットワーク社会を作ることを中心に活動してきました。えがおの学校は3年目を終えようとしていますが、昨年度までに研修を終了した研修生が自分のフィールドで新たなビジネスモデルを展開しつつあり、えがおの学校の成果が現われてきているとともに、農村再生・活性化の貴重な人材となりつつあります。研修生には自分のビジネスモデルを展開することにより、農村再生・活性化に寄与することを期待しています。

えがおの学校の活動と実績

えがおの学校のこれまでの取り組み

「えがおの学校」は、都市農村交流（農商工連携）マネジメントコーディネーター育成を目的に開講している講座です。これまで日本全国7か所で開催致しました。

えがおの学校の主な起業内容

（平成20年度、21年度研修生の起業率等）

平成20年度・21年度で延べ99名の研修生を育成し、その起業率（起業に取り組み始めた者も含む）は約40%です。

〈主な起業内容〉

- 無農薬緑茶、無農薬和紅茶の生産・販売（静岡県）
- 海外アートデザイナーとの連携によるアートプロジェクト（山梨県）
- 地産地消型の日替わりシェフによるカフェプロジェクト：ベリカフェ（埼玉県）
- 汽水湖に育つ渡利牡蠣のブランド化（三重県）
- 地産地消型の特産品開発・カフェプロジェクト（福島県）
- 地域問題になっている竹を活用した循環型産業育成プロジェクト：竹堆肥生産、竹宵イベント、竹による物づくり（熊本県）



平成20年度研修生

山梨県北杜校	23名
山梨県南アルプス校	8名
福島県会津校	12名
合 計	43名

平成21年度研修生

山梨県北杜校	23名
福島県会津校	10名
三重県三重校	13名
熊本県熊本校	10名
合 計	56名

平成22年度研修生

山梨県北杜校	21名
福島県福島校	7名
三重県三重校	9名
福岡県福岡校	15名
合 計	52名